

巻頭言

日々の安心・安全を提供する技術

Technology that Provides Safety and Security in Daily Life



小林信博 Nobuhiro Kobayashi

長崎県立大学 情報システム学部 情報セキュリティ学科 学科長 教授

Chair, Professor, University of Nagasaki, Faculty of Information Systems, Department of Information Security

令和6年年始に発生した災害及び事故のニュースは、我々が当たり前と感じる日々の安心・安全が、どれほど大切なものであるのかを改めて考えるきっかけとなった。被害に遭われた方々には、心からお見舞いを申し上げる。また、コロナ禍を経て社会に明るい兆しが見えてきた一方で、地球環境問題や世界各地での紛争等は、残念ながら時間をかけて解決に向けた取組みを継続していかなければならない。人間社会は、この困難をきつと乗り越えていくことができると信じて、私自身はその一助となるべく大学⁽¹⁾においてサイバーセキュリティに係る研究開発と人材育成に日々取り組んでいる。

日常生活に欠かすことのできない社会基盤となったインターネットの状況は、国立研究開発法人 情報通信研究機構(NICT)の大規模サイバー攻撃観測網(NICTER)の観測レポート⁽²⁾によれば、ダークネットにおいて一日あたり最大10億超の攻撃関連パケットが観測されている。この常に危険と隣り合わせの状況が続くなか、各団体や企業が連携し様々なセキュリティ対策を講じることで被害の発生を食い止めているという現実がある。三菱電機グループも攻撃者の標的となっている企業グループの一つであり、巧妙かつ多様化するサイバー攻撃に直面しているが、これに対抗すべく、技術的な側面だけでなく組織的及び人的な側面からもセキュリティを確保できる専門の組織として設置された“情報セキュリティ統括室”を中心に取組みを行っている。本特集においても、その具体的な取組みについて述べられており、継続的な改善を図りつつ、工場の現場についても国際規格IEC 62443-2-1などを参考に強化に取り組んでいることは、グローバル企業としてレジリエントな社会の実現に向けた責任を果たしていることの証と考えられる。

また、人々が安心・安全な社会の中でいきいきとした生活を送るウェルビーイングの考え方も、今後の持続可能な社会を実現するうえで重要となっている。例えば、日本セキュリティ・マネジメント学会誌の研究論文⁽³⁾によれば、精神的な概念の“あんしん”とは、“いざという時、人を超える力(例：現代の科学技術)が自分を助ける側(例：価値の提供)に立ってくれるという感覚”に集約されるとある。従って、安全な状態が維持できる、危険な状態を回避することができるという根拠や裏付けを技術的に提供することが、“安心”という主観につながると考えられる。本特集にあるように、ネットワークカメラの進歩は、どこかで誰かが見守ってくれているという“安心”につながり、近年目覚ましい発展を遂げているAIを活用した人の感情の分析や突然の体調異常を察知する技術は、自分の危機をいち早く察してくれるという“安心”につながるだろう。

不確実性の高まる時代に何がエッセンシャルであるかを追究し、世の中の人々の気持ちに寄り添いながら、先進的な技術で日々の安心・安全の提供に取り組む三菱電機グループの今後の更なる活躍に期待したい。

参考文献

- (1) 長崎県立大学 情報システム学部 情報セキュリティ学科
<https://sun.ac.jp/departments/systems/security/>
- (2) 国立研究開発法人 情報通信研究機構：NICTER観測レポート2023 (2023)
https://csl.nict.go.jp/report/NICTER_report_2023.pdf
- (3) 甘利康文：安心の本質とは何か？，日本セキュリティ・マネジメント学会誌，**34**，No.3 (2021)
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jssmjournal/34/3/34_3/_pdf/-char/ja